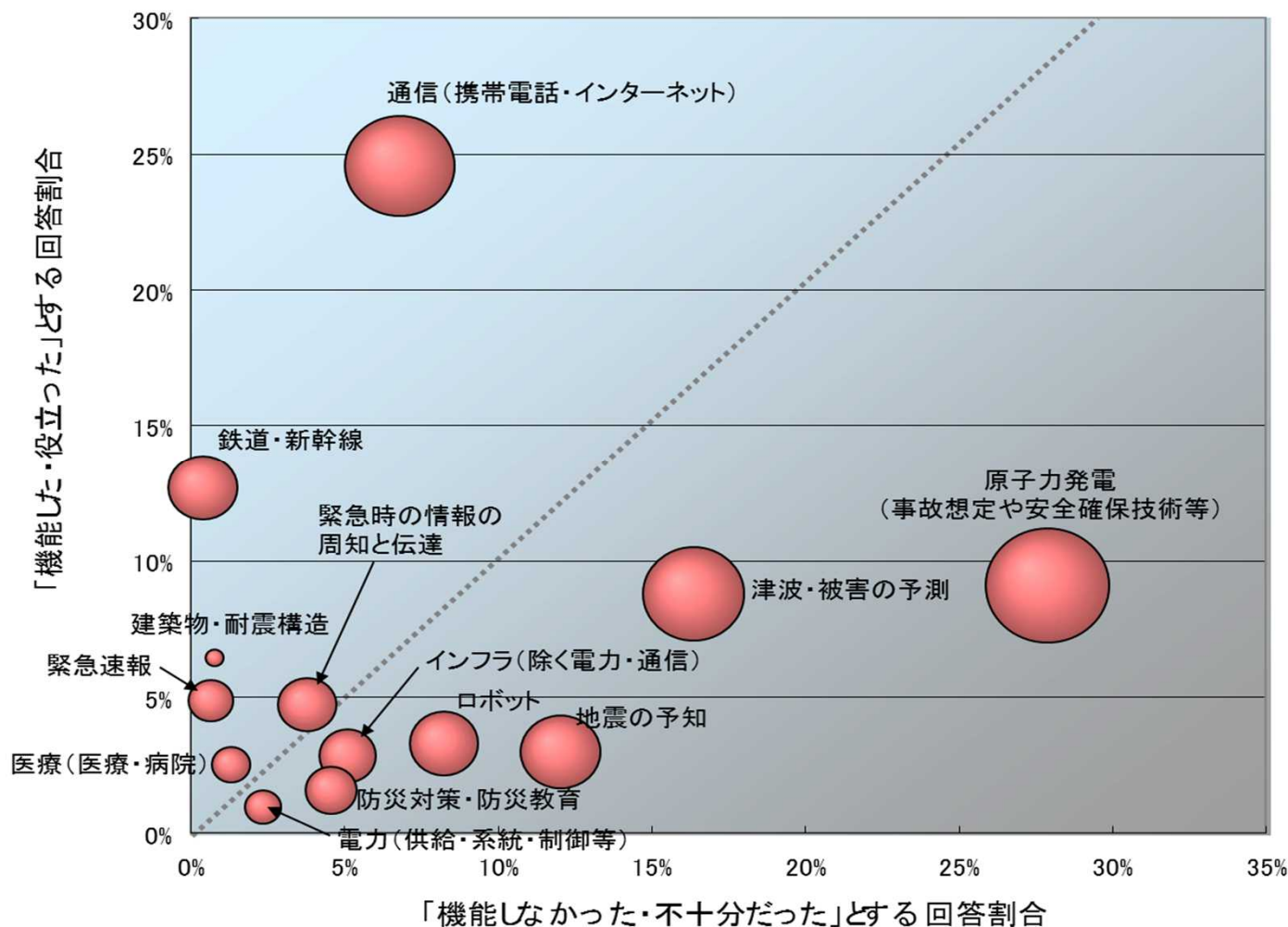


図 1-14 / 東日本大震災に際して機能したまたは機能しなかった技術と対策

- 現実の課題に対し「機能した・役に立った」とする科学技術として「通信」と回答した者の割合が高い。一方、原子力発電所の事故想定や安全確保技術、地震・津波の予測技術等に関して、科学技術が現実の課題に十分には対応できなかったと考えている者が多い。



出典：科学技術政策研究所「東日本大震災に対する科学技術専門家へのアンケート調査（第1回）」
（平成23年7月実施）の結果を基に、文部科学省作成

2. 主な実績

図2-1 / ノーベル賞受賞者数（自然科学系）

○今世紀に入ってから、我が国は米国に次いでノーベル賞受賞者数(自然科学系)が多い。

日本人受賞者

受賞年	氏名		対象研究
1949	湯川 秀樹	物理学賞	中間子の存在の予想
1965	朝永 振一郎	物理学賞	量子電気力学分野での基礎的研究
1973	江崎 玲於奈	物理学賞	半導体におけるトンネル効果の実験的発見
1981	福井 謙一	化学賞	化学反応過程の理論的研究
1987	利根川 進	生理学・医学賞	多様な抗体を生成する遺伝的原理の解明
2000	白川 英樹	化学賞	導電性高分子の発見と発展
2001	野依 良治	化学賞	キラル触媒による不斉反応の研究
2002	小柴 昌俊	物理学賞	天文学物理学、特に宇宙ニュートリノの検出に対するパイオニア的貢献
2002	田中 耕一	化学賞	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
2008	南部 陽一郎	物理学賞	素粒子物理学における自発的対称性の破れの発見
2008	小林 誠	物理学賞	小林・益川理論とCP対称性の破れの起源の発見による素粒子物理学への貢献
2008	益川 敏英	物理学賞	
2008	下村 脩	化学賞	緑色蛍光タンパク質(GFP)の発見と生命科学への貢献
2010	鈴木 章	化学賞	有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング反応の開発
2010	根岸 英一	化学賞	
2012	山中 伸弥	生理学・医学賞	成熟細胞が、初期化され多能性を獲得し得ることの発見
2014	赤崎 勇	物理学賞	明るく省エネルギーの白色光源を可能にした効率的な青色発光ダイオードの発明
2014	天野 浩	物理学賞	
2014	中村 修二	物理学賞	

	1901－1990年	1991－2000年	2001－2014年	合計
米国	156	39	55	250
英国	65	3	10	78
ドイツ	58	5	6	69
フランス	22	3	6	31
日本	5	1	11	17

出典：文部科学省作成

※ 2008年南部陽一郎博士、2014年中村修二博士は、米国籍であることから、米国に計上